



平成27年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年7月14日

上場会社名 株式会社ありがとうサービス 上場取引所 東  
 コード番号 3177 URL http://www.arigatou-s.com  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)井本 雅之  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)平川 俊之 (TEL) (0898) 23-2243  
 四半期報告書提出予定日 平成26年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第1四半期の業績(平成26年3月1日～平成26年5月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第1四半期	1,889	3.2	126	23.2	125	27.5	68	32.1
26年2月期第1四半期	1,830	—	102	—	98	—	51	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第1四半期	71.83	—
26年2月期第1四半期	54.37	—

(注) 1. 平成25年2月期第2四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しているため、平成26年2月期第1四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年2月期第1四半期	3,807	1,325	34.8
26年2月期	3,715	1,328	35.7

(参考) 自己資本 27年2月期第1四半期 1,325 百万円 26年2月期 1,328 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	75.00	75.00
27年2月期	—	—	—	—	—
27年2月期(予想)	—	0.00	—	82.00	82.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,761	3.0	200	1.1	190	△0.0	105	14.7	110.15
通期	7,688	3.7	508	6.3	487	4.7	236	12.5	248.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

27年2月期1Q	953,600株	26年2月期	953,600株
27年2月期1Q	235株	26年2月期	235株
27年2月期1Q	953,365株	26年2月期1Q	953,513株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、新車販売や家電販売などの個人消費や住宅建設に弱い動きが見られるものの、現政権主導による円安・株高進行により全業種規模で企業収益が改善するなど、緩やかな回復傾向で推移いたしました。しかしながら、消費税率引き上げの影響の懸念が今なお続いていることや、円安や燃料費の高騰による仕入コストの上昇、アメリカの金融緩和縮小をはじめとする海外経済の影響の懸念などにより、先行き不透明な状況が継続しております。

こうした状況のもとで、当社におきましては、人材の育成と既存店のさらなる強化、さらには内部体制の充実に努めてまいりました。

当第1四半期累計期間は、4月にホビーオフ松山南店(愛媛県)を新規出店しました。この結果、当社の店舗数はリユース事業76店舗、フードサービス事業32店舗、合計108店舗となりました。

当第1四半期累計期間の業績は、売上高1,889,316千円(対前年同四半期比3.2%増)、営業利益126,712千円(同23.2%増)、経常利益125,245千円(同27.5%増)、四半期純利益68,480千円(同32.1%増)と増収増益となりました。

セグメントごとの業績を示すと次のとおりであります。

#### (リユース事業)

当第1四半期累計期間におきましては、積極的な買取りと査定精緻化を進め、良品在庫の増大に努めてまいりました。また、売場への継続的な商品供給を行い機会損失を減らすとともに、お客様目線の売場づくりを進め、売上高の増加に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高1,302,013千円(対前年同四半期比3.1%増)、セグメント利益(営業利益)171,887千円(同27.5%増)となりました。

#### (フードサービス事業)

当第1四半期累計期間におきましては、フランチャイジー事業においては本部主導の販売促進活動を、オリジナルブランド事業においては新商品の投入を積極的に行う等、来店客数増加に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高587,302千円(対前年同四半期比3.6%増)と増収となりましたが、人件費、水道光熱費等のコスト増加により、セグメント利益(営業利益)32,280千円(同4.5%減)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて73,455千円増加し、1,757,939千円となりました。現金及び預金が13,315千円増加、売掛金が16,706千円増加、商品が46,777千円増加したことが主な要因であります。

固定資産は、前事業年度末に比べて17,612千円増加し、2,044,067千円となりました。有形固定資産が19,265千円増加したことが主な要因であります。

繰延資産は、前事業年度末に比べて979千円増加し、5,639千円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて92,048千円増加し、3,807,645千円となりました。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べて39,763千円増加し、1,030,198千円となりました。1年内返済予定の長期借入金が10,178千円減少、1年内償還予定の社債が56,000千円増加、未払法人税等が85,176千円減少したことが主な要因であります。

固定負債は、前事業年度末に比べて54,852千円増加し1,451,911千円となりました。社債が110,000千円増加、長期借入金が64,908千円減少したことが主な要因であります。

この結果、負債は、前事業年度末に比べて94,616千円増加し、2,482,109千円となりました。

#### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて2,567千円減少し、1,325,536千円となりました。利益剰余金が3,022千円減少したことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年4月14日に公表しました「平成26年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」の数値に変更はありません。また、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成26年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	655,551	668,867
売掛金	40,868	57,574
商品	850,901	897,679
貯蔵品	3,648	3,499
その他	134,128	131,154
貸倒引当金	△615	△836
流動資産合計	1,684,483	1,757,939
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,012,898	995,472
その他(純額)	328,960	365,652
有形固定資産合計	1,341,859	1,361,125
無形固定資産	18,499	16,620
投資その他の資産		
差入保証金	410,550	412,016
その他	260,190	258,956
貸倒引当金	△4,645	△4,651
投資その他の資産合計	666,095	666,321
固定資産合計	2,026,454	2,044,067
繰延資産	4,659	5,639
資産合計	3,715,597	3,807,645
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	72,771	89,950
1年内返済予定の長期借入金	298,447	288,269
1年内償還予定の社債	187,000	243,000
未払法人税等	140,876	55,700
その他	291,339	353,278
流動負債合計	990,435	1,030,198
固定負債		
社債	234,000	344,000
長期借入金	570,517	505,609
役員退職慰労引当金	35,133	38,551
資産除去債務	357,496	364,906
その他	199,911	198,844
固定負債合計	1,397,058	1,451,911
負債合計	2,387,493	2,482,109

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成26年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	547,507	547,507
資本剰余金	63,507	63,507
利益剰余金	714,053	711,031
自己株式	△401	△401
株主資本合計	1,324,667	1,321,645
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,436	3,891
評価・換算差額等合計	3,436	3,891
純資産合計	1,328,103	1,325,536
負債純資産合計	3,715,597	3,807,645

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	1,830,179	1,889,316
売上原価	627,996	621,608
売上総利益	1,202,182	1,267,707
販売費及び一般管理費	1,099,292	1,140,995
営業利益	102,890	126,712
営業外収益		
受取利息	73	219
受取配当金	41	66
不動産賃貸料	8,340	7,614
その他	6,127	6,950
営業外収益合計	14,582	14,850
営業外費用		
支払利息	7,253	5,303
社債利息	1,377	1,321
不動産賃貸原価	9,562	8,506
その他	1,074	1,186
営業外費用合計	19,266	16,317
経常利益	98,205	125,245
特別損失		
固定資産除却損	50	-
減損損失	2,506	-
特別損失合計	2,557	-
税引前四半期純利益	95,648	125,245
法人税、住民税及び事業税	43,560	50,885
法人税等調整額	247	5,880
法人税等合計	43,807	56,765
四半期純利益	51,840	68,480



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	リユース事業	フードサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,263,382	566,797	1,830,179	—	1,830,179
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,263,382	566,797	1,830,179	—	1,830,179
セグメント利益	134,770	33,786	168,557	△65,666	102,890

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	リユース事業	フードサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,302,013	587,302	1,889,316	—	1,889,316
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,302,013	587,302	1,889,316	—	1,889,316
セグメント利益	171,887	32,280	204,167	△77,455	126,712

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。